

アルテ・トーキョー

東京の秋冬を彩る新たな文化芸術祭「ARTE TOKYO」が開幕 オープニングアクト「ARTE TOKYO CIRCUS」を上演、 特別クルーズ船「ARTE TOKYO CRUISE」も運航開始 臨海エリアを皮切りに、3エリアへ広がる文化芸術体験

本ニュースレターでは、都市そのものを舞台とする新たな文化芸術祭「ARTE TOKYO（アルテ・トーキョー）」の最新情報をお届けします。

「ARTE TOKYO」が2026年10月10日（土）に開幕いたしました。臨海エリア、日比谷・丸の内エリア、代々木・渋谷エリアの3つのコアエリアを中心に、東京を代表するまちなかへ、アートやパフォーマンスをはじめとする様々なプログラムを掛け合わせることで、見慣れた都市空間が豊かな表情をもつ表現の場へと変貌を遂げています。

秋空のもと開幕を迎えた臨海エリアでは、オープニングアクト「ARTE TOKYO CIRCUS」の上演に加え、国際美術展「TOKYO ATLAS」との連携企画「ARTE TOKYO CRUISE」も運航を開始しました。お台場海浜公園の水辺や展望デッキ周辺では、サーカスパフォーマンスや船上から望むベイエリアの景観を通じて、街なかや水辺を舞台としたARTE TOKYOならではの文化芸術体験を展開しています。

臨海エリアでの開幕を皮切りに、今後は日比谷・丸の内、代々木・渋谷の各エリアでもコアプログラムが順次スタートします。

現代サーカスと都市が融合し、お台場の景色を一変させた「ARTE TOKYO CIRCUS」



「ARTE TOKYO」は、お台場展望デッキ周辺にて上演された「ARTE TOKYO CIRCUS」とともにその幕を開けました。

現代サーカスディレクター・田中未知子が手掛けた本パフォーマンスは、従来のサーカステントの枠組みを飛び出し、お台場という公共空間そのものを舞台へと変貌させました。秋空と東京湾を借景にし、高さ6mのトラスを用いて、臨場感あふれる生演奏の音色に合わせたパフォーマンスを披露。重力を感じさせない空中芸（エアリアル）や、金属の輪を自在に操るシルホイール、スリリングなアクロバットなどがシームレスに繰り広げられました。

10月10日（土）、11日（日）の2日間で約2,500名の来場者が集まり、目の前で繰り広げられる技と都市の景観が織りなす空間に見入る姿が見られました。観客が街なかでふと足を止め、アートと都市の景観が溶け合う瞬間を共有することで、臨海エリア全体に芸術祭の開幕を告げる新たな情景と賑わいが創出されました。

11月14日（土）には再びお台場展望デッキ周辺にて現代サーカスを上演するほか、11月15日（日）には東京都公認のヘブナーティストによる大道芸プログラムを開催予定です。都市空間を舞台とした様々なパフォーミングアーツを通じて、街なかで気軽に芸術文化に触れる機会を創出します。



船だからこそ出会える東京の景色を楽しむ「ARTE TOKYO CRUISE」



開幕と同時に、臨海エリア（お台場海浜公園）と天王洲エリア（天王洲ピア）を結ぶ特別クルーズ船「ARTE TOKYO CRUISE」の運航がスタートいたしました。本事業は品川区との共催により、単なる移動手段にとどまらず、アート会場間を移動する時間そのものを魅力的な都市体験へと高めるプログラムとして実施しています。船に乗り込むと、都市の喧騒から離れ、波音とともに東京湾の穏やかな水面を進んでいきます。

頭上を覆う重厚な橋梁をくり抜けるダイナミックな臨場感や、視界いっぱいに広がる東京湾の開放的な景色、海側から望む高層ビル群のシルエットなど、水上ならではの視点から、普段とは異なる東京の表情に出会うことができます。昼間は青空と水辺が織りなす開放的な景色を、夕刻には茜色から群青色へと移り変わる空と、街の明かりが水面に揺れる幻想的な情景を楽しめます。

また、本クルーズは、お台場と天王洲を水上で結び、お台場、青海、天王洲などに会場を展開する国際美術展「TOKYO ATLAS」とも連携しています。水上から東京の景色を楽しみながら次のアート会場へと向かうことで、会場間の移動そのものが東京の新たな魅力に出会う機会となり、水辺と街なかに広がるアートをゆるやかにつなぐ、新たな都市体験を生み出しています。

12月20日までの期間中、主に土日祝に運航します。この機会にぜひ、船旅をお楽しみください！

<https://mizubetokyo.com/artetokyocruise/>



臨海エリアで開催しているプログラム

・JIKU #024 TELEPORT BRIDGE（コアプログラム）



土地に刻まれた歴史の軸を光で可視化し、テレポートブリッジから臨海副都心のいままでとこれからをつなぐ。

アーティスト：齋藤 精一

会期：10月10日（土）～12月31日（木）17:00～23:00点灯予定

会場：シンボルプロムナード公園

・国際美術展 TOKYO ATLAS（ハイライトプログラム）



芸術文化は都市の魅力を形成する基盤であり、そのさらなる発展を可能にする原動力でもあります。とりわけ東京という多様な人々が交錯する大都市において開催するこの美術展は、作品展示の場にとどまらず、アートに触媒として、アーティスト、観客、企業、教育機関などの領域横断的な知の交流を促進し、多様な価値観や社会課題への気づき、そして未来に向けた好奇心が生まれるプラットフォームとなります。

会期：10月10日（土）～12月20日（日）

会場：台場エリア、青海エリア、天王洲エリア

公式ホームページ：<https://tokyoatlas.jp/>



・東京アクアシンフォニー（ハイライトプログラム）



東京アクアシンフォニーは、東京の美しい景観を背景に、水の動き、音楽、そして光が一体となって織りなす世界最大級の噴水ショーです。高さ150メートルまで噴き上がるダイナミックな高射噴水と、東京都の花・ソメイヨシノ（桜）をモチーフとした横幅250メートルに広がる噴水が合わさり、圧倒的なスケールの演出をお届けします。

会期：メンテナンス日等を除き毎日上演予定

会場：お台場海浜公園

公式サイト：<https://tokyoaquasymphony.jp/>



11月以降、臨海エリアではコアプログラムが本格展開

臨海エリアでは11月以降、コアプログラムが本格的に展開します。11月7日（土）からは、Daito Manabe + Kyle McDonald produced by Rhizomatiksによる「Alloscape」、永山祐子による「うみのハンモック」、湯浅良介 + GROUPによる「風船と椅子」がスタート。同日以降、鈴木康広による「ファスナーの船」も航行を開始します。また11月14日（土）には「ARTE TOKYO CIRCUS」を再びお台場展望デッキ周辺で上演します。

開幕時から展開する「ARTE TOKYO CRUISE」とあわせ、作品鑑賞だけでなく、街歩きや水辺の移動を通じて臨海エリアを巡る体験を創出していきます。

公式WEBサイトでは、各プログラムの開催日時・場所などの詳細情報を公開しています。会期中のお出かけやエリアを巡る際に、ぜひご活用ください。

ARTE TOKYO公式WEBサイト：<https://artetokyo.jp/>



ARTE TOKYOでは、ARTE TOKYOの最新情報をお届けするメールマガジン「ARTE LETTER」を定期配信しています。「ARTE LETTER」の配信を希望する場合は、pr@artetokyo.jpまで、件名に「ARTE LETTER配信希望」と記載のうえご連絡ください。

お問い合わせ先

ARTE TOKYO PR担当：渡邊・窪田・西山・春山

TEL：03-5572-7375 / MAIL: pr@artetokyo.jp